

お答えいたします。

糸魚川市においては、先ほど来、教育長の答弁にありましたが、現在35人を上回るクラスについては、小学校で1学級、それから中学校で1学級、計2学級ございます。県から少人数学習指導に関する加配教員のほうも配置されておりますし、また、市では学力向上支援員も配置いたしております。それに基づいて、35人以下であっても少人数学習をできるように、できる限り手当てをしていきたいというふうに考えておりますし、先ほどの基礎定数に回して、加配教員が減るんではないかというふうな危惧もあります。県のほうにはそういったことのないように要望は重ねていきたいと思っておりますし、市独自としても学力向上支援員等をできる限り確保しながら、現場の少人数指導を推進していけるようにしたいと考えております。

また、GIGAスクールに関わって、デジタル化、それからプログラミング学習をはじめとしたICT関連の教育につきましては、ICT支援員を増員する形で現場のニーズに応じていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田中議員。

○15番（田中立一君）

ありがとうございます。小学校の市内の1学級というのは、たしか6年生か5年生だったかなど。来年とか再来年の話じゃないかなと思いますけど、また、こういったものは年度が替わっていくと、子供の数も変わってきます。どんどんと現場は変革期を迎えて、大変な状況ではあるかと思えますけれども、加配のほうも含めて、しっかりと対応をしていただきたいと思いますので、よろしく願いして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

関連質問はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

13時35分まで、暫時休憩といたします。

〈午後1時25分 休憩〉

〈午後1時35分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。〔19番 五十嵐健一郎君登壇〕

○19番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

これより、市議会議員最後の一般質問をさせていただきます。

まず、早朝からの火災につきまして、お見舞い申し上げますとともに、関係各位に対し、心より御礼申し上げます。

それでは、1番目、第3次総合計画における糸魚川未来重点戦略の取組・方向性について。

12月議会等の一般質問での糸魚川市の本質的価値や脱炭素社会及び市政運営等の回答やアンケート調査を踏まえて、より深掘りし、理事者としての政策ビジョンを総合計画に反映するべきと思います。

そこで「ワクワクするような夢と希望の持てる」糸魚川市にするためにも以下の項目により、未来重点戦略の取組・方向性についてお伺いいたします。

- (1) 大深度地熱発電等の再生可能エネルギー。
- (2) 水素社会への対応。
- (3) 水の調査研究と利活用。
- (4) 東京圏等一極集中の是正。
- (5) 地域医療の充実と医療制度の改正。
- (6) 断らない相談支援体制づくり。
- (7) 糸魚川オープンイノベーション（IOI）会議の設置。
- (8) 皇室ゆかりの三の丸尚蔵館の美術品借受けと当市文化財保存活用地域計画。
- (9) 職員等の意識改革と経営感覚。
- (10) このほかに新しいワクワクする政策ビジョンを上げていただきたい。

これで、1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、国の機関で調査研究が始まった段階であり、引き続き、情報収集に努めてまいります。

2点目につきましては、水素は今後、重要な役割を果たしていくと考えており、国・県など、この動向を注視してまいります。

3点目につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響で大学等との協議が進んでおりませんが、民間の小水力発電の動きが出てきておりまして、今後も水資源の利活用について推進してまいります。

4点目につきましては、人材確保に努めるとともに、ワーケーションの推進やサテライトオフィスの整備により首都圏等から人の流れを創り出し、将来的な移住定住につなげてまいります。

5 点目につきましては、医療制度改正など、国の動向を注視し、今後も医師会や糸魚川総合病院と連携をして、地域医療の維持・充実に努めてまいります。

6 点目につきましては、社会情勢の変化に伴い相談内容も複雑化しており、引き続き関係機関と連携をし、相談体制の強化を図り、課題解決に向けて相談者に寄り添った支援を行ってまいります。

7 点目につきましては、現在、糸魚川産業創造プラットフォームにおいて、市内企業、商工会議所が連携して、地域課題の解決に向けた取組を進めております。

8 点目につきましては、美術品の借受けは、当市の施設では難しいと考えております。

また、市文化財保存会活用地域計画は、県文化財保存活用大綱に沿って来年度から策定してまいります。

9 点目につきましては、今までの考えにとらわれない民間の経営感覚を意識しながら、行政を進めていく職員の意識改革が必要であると考えております。

10 点目につきましては、現在検討しているところではありますが、様々な観点から夢や希望の持てる具体的な政策を提案できるよう検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

第1番目の大深度地熱発電、これも12月議会で質問をさせてもらって、また、新エネルギービジョンでも市民厚生常任委員会で議論されとったんですが、NEDOが調査して、超臨界地熱発電、同じ大深度なんですけど、この調査研究、実施可能性調査、詳細事前検討でされて、糸魚川市と小谷村とも近くでやっていると。この可能性はあるかどうか、どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

超臨界地熱発電につきましては、通常1キロから2キロぐらいの深度での地熱発電というのは多いのですが、この事業につきましては、5キロ程度まで掘り進むという新しい技術であります。現在、国のほうで、おっしゃられましたNEDOのほうで調査中でございまして、実現可能性は2050年頃を目標にしているというふうに聞いておりますので、こちらのほうにつきましては、火山地帯が有効と聞いております。ですので、当市には新潟焼山もありますので、そういったところを国の調査の内容を見ていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

大所地区にも説明されていて、これが進めばすばらしいとこだと思うんですよね。純国産で無限の夢の再生エネルギー、日本がいち早く、真っ先に実用化へ向かえば、世界に技術共有して、野球でいう逆転ホームランに値するというすばらしい発電なんで、ぜひ進めていただきたいんですが、そのほかに調査、GPSやいろいろな形でビッグデータも使いながら調査されたと思うんですが、この糸魚川全体を考えた場合に、そこだけでなく、まだ可能性あるところはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

市内全域におきましては、JOGMECという国の出先機関が調査をしておりますが、現在の発電方法を採用するとすれば、ここが明確に可能性があるというような場所については、今のところ調査結果の中には入っておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

21年度から在来型も含めて、大野地区でやったのは駄目みたいですけど、次世代型も含めてやっぱり可能性はまだまだ違うところにもあると思うんで、次世代超臨界地熱資源、必要性和重要性は大ということなんで、ぜひとも違う形で新型プロジェクト構想も含めて、ぜひやっていただきたいと思うんですが、これに向けて、その辺含めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

当市としましては、平成26年度から28年度にかけて、地熱事業の調査を実施しております。現在の技術を使ったものの中では、なかなか難しいという結果が出ておりますので、議員おっしゃられますような新しいこの取組につきましては、国の動向を見守っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、技術がどんどん進歩して、次世代型に入っていく可能性もありますんで、その辺は国の動向を確かめて、進んでいただきたいなど、こう思っております。

それで、昨日の滝川議員でもありましたように太陽光、太陽光発電を含めて浪江町ですか、太平洋側の浪江町、これが太陽光発電を使いながら水素発電も使ってるということで、ぜひ耕作放棄地を利用しながらソーラーシェアリングも含めて太陽光かなりあると思うんですが、その辺も含めて

水素への転換も含めて、そういう形は取れないかなと、こう思っとなるんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

太陽光発電につきましては、FITの買取価格の低下に伴いまして、なかなか実施が難しい状態になっておりますけども、そういったものを発電のみでなく、ほかの方法に使うというやり方というのも新しい方法としてあるかと思えます。

水素につきましては、新潟県水素サプライチェーン構想というのがございますので、この県全体の民間を巻き込んだ流れの中で、当市が何ができるのかというところを考えてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ県水素拠点化推進事業、これも含めて次世代太陽光発電とか低コストの蓄電池も含めて、かなり推進協議会で行われてると思うんですが、その辺も含めて糸魚川、やっぱり可能性はいろいろあると思うんで、その辺ぜひ、水素ステーションも含めて、その辺設置できる、ちょうど148や高規格道路はまだですけど、国道8号を含めて、拠点だと思うんですよ。その辺も含めてステーション設置、それと自動車、水素自動車も含めて、今そっちの電気自動車、水素自動車も含めて、普及されてくると思うんで、その辺のやっぱり、すぐ変わっていくと思うんで、来年になればかなり進んでくると思うんで、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

新エネルギー関係、流れというのは非常に早くなっていると思います。この時代の流れに乗り遅れないよう先行して、いろんな検討を加えながら、新エネルギーに対応できるべく施策を持っていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

市民厚生常任委員会でもかなり出てたんですが、中・小水力発電も含めて水力発電、糸魚川市内17基ある。そこでやっぱりこれらを利用して、次の水の利活用も含めてあるんですが、この水力

発電を使いながら、水の川の海洋深層水も含めて、水から水素を作る技術が12月議会にも出ましたが、一昨年はその装置が開発されたみたいなので、やっぱりそういうのと結びつけてできるような、糸魚川は水だと思うんですよ。水を利用した中で、水素作りを進めていけるプロジェクトもやっぱり必要だと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

中・小水力発電で発電した電気につきましては、やはり時間帯によっては余剰が出てくるかと思えます。そういった余剰時間の電力を利用して、水素を製造するという事は、可能かと思っております。

また、12月議会でお教えいただいた触媒を利用した水素の発生装置のところも見させていただきました。新しい技術は次々出てきますので、そういったものを見ながら事務を進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ進めていただきたいと思えますし、全国から募集して、いい企業なり、次に出てくる人材確保も含めて、そういう専門家を呼んでくるんですよ。呼んできて、糸魚川で水を利用しながら、水素のプロジェクトチームを発足しながらどうやっていくかを考えていただきたいのが1点。

それで、水をやっぱりすばらしい水、大学との連携はまだと言われてるんですが、水を売ること、海洋深層水引き上げてやることもいいんでしょうけど、水を世界に売ることも必要ではないですかね、これだけ豊富なんだから。コロナワクチンに効く魔法の水じゃないですけど、コロナに効くですか、ワクチンより有効性がいっぱいあるとか、そのぐらい含めて、やっぱり水の利用、富山に負けないぐらいの飲み水ぐらいの開発できると思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

市内には、確かにいろんなやっぱり地層があります。ということは、やっぱり水もかなり種類が違って来るのかなというふうに思っております。市内の中では石灰石、栄養豊富なもの、それとか鉄分が豊富とか、マグネシウムが豊富だとか、いろんなやっぱり水というのがあると思うんですね。今、全国の中でも、またいろんなご当地の資源を生かすということで、水の販売をされているところもあると思えます。

やっぱり売るには、マーケットの問題もあると思えます。売れるためには、何かこれぞというも

のが必要だというふうに思います。そこら辺を研究しながら進めなきゃいけないですし、やっぱり糸魚川ならではのこれといった効能があるもの、水が何時間も何日も持続して腐らないとか、そういった特徴を捉えながら研究していく必要はあるというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、やっぱり糸魚川ならではの、やっぱり水だと思うんですよ。水力発電もそうでしょうけど、それを含めて何かを混ぜることか、何かのヒントを与えていただいて、どうやっていくか、販売していくか、売っていくか含めて、その辺の研究、企業も含めて、大学との連携も含めて、ぜひやっていただきたいと思うんですが、水力発電も含めて、市長どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、我々やはり糸魚川市は非常に水資源が豊富であります。今年も、今冬もやはり豪雪に見舞われたわけでありますが、非常に水分の含んだ雪であるわけでございまして、これ等もやはり糸魚川市の水資源になっておるわけでありますので、これを使わない手はないわけでありますので、今、みんな大体大きい水力発電はもう完成されとるわけでありますが、中小のやはり水を、資源を生かした中で発電所をどう生かしていくのか。

そして、やはりこれは地域に還元できるものでなければ駄目だと思っております。企業に、ただ単に場を提供するようなものであってはならないわけでありますので、やはりしっかりと、やはり地元で還元できる小水力発電だったり、中小水力発電であるべきであるわけでございまして、そういったところをやはりしっかりと位置づけしていかなくてはいけないと思っております。それらにつきましては、やはりそういったノウハウを持ったところとしっかりと連携を取っていききたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

やっぱり地域に還元ということで、飯田市ですか、これかなりやってるんで、ぜひ勉強していただきたいなど、こう思っております。

それと、トヨタが、未来の街ということで、静岡県の裾野市ですか、「ウーブン・シティ」やっぱり大企業を巻き込んでやっていければ、その辺も含めて、それを糸魚川市に取り入れろってなかなか難しいでしょうけど、そういうような考えも含めて、自動運転やAIを使いながらやっていくような、やっぱりまちづくりが必要だと思うんです。町場だけでなく、遠いところも含めて、できる体制というのは、私はできると思うんで、その辺も含めてやっぱり後ろに出てくるAOIじゃな

いですが、大学、大企業との連携も含めて、ぜひやっていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

たしかに今、新型コロナウイルスの関係、コロナ禍において、一つの経済も含めての転換期であることは、議員の皆様もそういうふうにしていらっしゃるというふうにしております。その中で、今やっぱりこういった新しい脱炭素化社会という形に変わってきたり、デジタルで何とか人口減少の効率性、それから快適性を求めていくという時代にはなってきたのかなというふうにしております。やはりそこへ行き着くためには、まだまだ技術的な開発というのは、これからの中と思います。国際競争の中で、どううまく勝ち抜いていくのか。そういったところが日本の国全体の課題にもなりますし、その中でも糸魚川はローカルという立場の中で、どう首都圏の皆様、いろいろな人との関わりを持って、地元の企業とプラットフォームの中で連携して、まちづくりを進めていくのか。そういった一つの考え方で、これからは人材の育成、それから研究というのが、ここ数年続いていくというふうにしておりますので、その流れにしっかり情報をつかむ中で、糸魚川の資源と地域の産業とをどう結びつけていくのか、模索しながら進めていく必要があるというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、昨日も出ていました。やっぱり公用車にEVやFCV、この辺も含めて入れていくような形、企業からも入れていただければ。水素ステーションに結びついていく。

ほいでトヨタがカーボンニュートラルに向けた水素活用の促進を目指して、燃料電池システムをパッケージ化したFCモジュールを開発したんですね、FCモジュール。それで21年春以降から販売開始予定。令和3年度から販売開始する予定なんです。その辺も含めて、やっぱりいいもの開発したら、もらってくるんですよ。それで、どこらでいろいろな形、トラックやバス、鉄道、船舶、いろいろな形でそこに今度は入れていきますんで、かなり進んでくると思うんで、その辺も含めてぜひやっていただきたいと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、自動車のお話だと思うんですが、確かにガソリン車を使ったものからEVへと、2030年をめどにかなり進んでくるのではないかなと思います。2020年の半ばに、もうやっぱりかなりの技術力というのは出てくると思いますので、そういった情報をしっかり取り入れる中で、公用車



の中に取り入れるのかというのは、ちょっと今お答えはできませんけども、そこら辺の流れを潮流をしっかりと酌み取って、この市役所の中も対応していく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

出光興産が超小型の電気自動車、4人乗りで価格が150万円以下、2022年度中に発売予定と。もうはい出てきてる。中国の車もあれですね、どんどん安くなってきてる。それで普及していくような可能性も出てきてるんで、ぜひその辺も含めてやっていただきたいなど、こう思っております。

それで10番目で、新しいわくわくするような夢と希望の持てる糸魚川市にするためにも、私は政策ビジョンを上げていただきたい。この最初の答弁では、検討するという事なんですが、もうやっぱり発表する段階でないでしょうかね。市長どうですか、やっぱり具体的な、どうやって糸魚川をしていくんだということ、もうやっぱり発表しないといけない時期だと思うんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

発表するというか、私はやはりこの新型コロナウイルス感染症の発症いたした事柄が大きく世間、世の中を変えたと思っております。グローバルの時代から、これからはやはりグローバルも大事だけれどというようなことが再認識されたわけでありまして。それにはやはり地域経済がしっかりと位置づけ、裏づけがあって、この都市が存在するものと捉えとるわけでありまして。そういうことを考えたときに、やはり循環型経済をどのようにしていくかというところが重要になってくるわけでありまして、非常に糸魚川市は少し先進的に動いていただいた商工会議所が中心になりまして、産業創造プラットフォームがスタートいたしました。その中で非常に今までと違った少しエネルギーも感じとるわけでありまして、私は、それにさらに行政も一体となって、官民連携でしっかりと捉えていくべきではないか。そうすることによって、新たな産業の創出にもつながると思っております。

それは何かというと、やっぱり高齢化社会において、今のデジタル社会に入っておりますデジタルトランスフォーメーションになってきたわけですので、やはりICTを使いながら行政の仕事もその中に入れていく。高齢化社会の中において、そういったものを生かしていけるのではないかと。そういうことを考えたときに、新たな展開の中で、行政としても行政改革につながっていく。そして、民間においてはそういった新たな産業が生まれていくことによって、健康管理等も加わっていただいたりして、そういった市民にとっても非常にいいものになっていく。今そういう目の前にあるのは、いろんなものがやれそうな体感になってきてるわけですので、それをしっかりと、もう産業として位置づけていく。全部行き渡らなくちゃだめだということではなくて、やれるところから入っていけるものがあるんじゃないか。そして、行政が今、抱えてるいろんな事業の中

においても、加わっていただくことが、そういった地域の産業に結びついていけるように持っていきたいと思っております。ですから、民にやる、官が、企業と、そういう形でなくて、官民連携で捉えていくことがこれは大事になってるんじゃないかなと思っております。それがイノベーションだったり、ワーケーションだったりといういろんなところを連携して、やっていけるように、私は明確に位置づけしていきたいと思っております。それが新たな産業を生むという形になっていくんじゃないかなと思っております。

それともう一つは、やはりこれから高齢化社会へ入っていく中において、人口減少も起きとるわけでありましたが、地域医療が大事になってくると思っております。その地域医療に対しましてもやっぱり存続していく形をどうしていくのかというところがあるわけでありまして、やはり安心して住んでいける社会があって初めて、そこにやはり存続する一つの社会になっていくんだらうと思うわけでありまして。それには、やはり今ある医療資源をどのようにしっかりと位置づけるかということ、我々今、地域医療の核になっております糸魚川総合病院におきましては、やはり高度医療のサテライトセンターみたいな、やはり大学との連携をしっかりと続けて、医療水準を上げることによって、人口減少の中において、またいろいろとそこで、よそからおいでいただいて、そこで手術なり入院をしていく部分も出てくるわけでありまして。そして、そういう医療水準を上げることによって、今不足しておる医師、また看護師にもつながっていくだらうと思っております。そういったところをしっかりと明確にさせていきたいと思っておりますし、サテライトセンターについては、今少し情報を頂いてる中においては、大学連携がしっかりとできそうであるわけでありまして、もっともっとそれを資源なり、力を入れていきたいと思っております。

そのほか今言ったように、前段でも話をしておりますように、水をどうやって生かしていくかというの、やはり地域に還元していくシステムをしっかりと位置づけていかななくてはいけないと思っております。これにはやはり地域や行政が入らないと、解決できないいろいろな利権問題、そういった権利問題がいろいろあるわけでありまして。そういったところにつなげていきたいと思っております。そういったところをしっかりとまとめて皆さんに示していける、このコロナ禍の中においてはそういったことが、よりスピードを持って取り組んでいかななくてはならないんだらうと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

本当に具体的な提案もいただきました。

そん中で地域医療、今、前回12月議会でもやりました遠隔医療、オンライン診療も含めてやっぱりやる時代に来てると思うんですが、その辺も今、国でも制度化されて、伊那市では、モバイルクリニック、その辺も含めてもうやってられるんですね。次世代のモビリティサービス全般も含めて、そういう形でやってられるんで、診療所も含めてたくさんあるんで、それを集中的に糸魚川総合病院でやってもらえるような形というか、その辺、オンライン診療、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ほどの五十嵐議員のご質問であります遠隔診療、オンライン診療については、12月議会でもお答えをさせていただいております。その中では、現在のコロナ禍、こういう状況において非接触の診療が可能になったり、また、糸魚川総合病院には、富山大学から医師を派遣していただいておりますので、大学の高度な先生から診療をしていただける。あるいは訪問診療において、医師や看護師が広い市内を移動せずに診療できるというような、いろんなメリットがあるというふうに考えております。

市としましても、今試みとして、糸魚川総合病院と富山大学を何かこう結びつけることで、高度医療を提供できないかということについては、糸魚川総合病院と現在相談をしながら進めております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ糸魚川総合病院と富山大学含めて、先ほど市長が発表されたサテライトセンター、高度医療でないとなみな上越や富山に持っていかれるんで、やっぱり糸魚川で、糸魚川総合病院でできるような、やっぱり救急患者も含めて2次救急、3次救急ぐらいまでできるような高度医療、それは必要だと思うんですね。そこまでできるようなサテライトセンターにするんだと思うんですが、その辺、具体的にどうなるか分かりませんが、やっぱり遠隔医療も含めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今お話のありました3次医療全体までというのは、今の糸魚川総合病院の医療資源では難しい部分がありますけども、一つの例としまして、この4月から膵臓・胆道センターの外来、あるいは膵臓・胆道がんのドック、こういうものをこの4月から糸魚川総合病院で始めております。これにつきましては、富山大学の先生のご協力を頂きながら、糸魚川にしながら高度な医療を提供できるということでありまして、こういうものをもう少し増やせるのでないかということで、先ほどお話ししました糸魚川総合病院と富山大学と協議をしながら、こういうものを進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひその種類、多様目というか、多種類できるような、増やしていただいて、そんな次々とは駄目でしょうけど、徐々に1つずつ積み重ねていって、ここで高度医療ができるような体制づくりっ

て、本当に必要だと思うんです。それ目指してやっていただきたいなと、こう思います。

それと、今なでしこですか、やっぱりあの辺の活用できるような方策というのは、何かできると思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院に併設をしております介護老人福祉施設なでしこにつきましては、今年の3月末をもって休止というような状況でございます。建物につきましても、まだ年数等もあまりたっていないようなことから、その活用につきましては、設置者であります厚生連のほうともしっかりと協議をして、活用のほうを図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

なでしこにつきましては、糸魚川総合病院と併設いたしとるわけでありまして、やはり医療資源として生かしていくことが一番大事だなと思っております。今ある課題については、やはり医師不足、看護師不足あるわけでありまして、その看護師不足について、そういった施設をいかに生かしていくか、これが大切であろうかと思っておりますので、そのようなところをやはり大事に、ほかの施設も使えるわけでありますが、しかし、糸魚川の中核病院の併設の施設としては、やはり一番そうした医療の関係する施設として、生かしていきたいと思っておりますし、それに対しては、やはり行政もしっかりと支援をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ医療関係も含めて、介護福祉士も不足しておりますし、高齢化もしてるんで、それも含めて看護師、それを要請するところとか、いろいろなところも考えられると思うんで、それをミックスしながら、やっぱりちょうど併設しとるんで、方法を考えて検討して、すぐ結びつけていけるような体制づくりをしていただきたいと思います。

それと、先ほどありましたように、やっぱり遠隔医療、富山大学、12月議会でもやらせてもらいましたが、その富山大学だけでなく、今県も構想してるんで、県立病院や厚生連、いろいろな形でやって、本当は新潟大学からも来ていただきたいし、違うところからも本当にオンラインでできる可能性もあると思うんで、大企業が副業とか今できる時代、空いた時間で何をやっていただけるかとか、病院も、医師が病院長、経営感覚を持った病院にしてもらいたいんですよ。もうかるような病院にしてもらわなきゃ、やっていかれんやんで、赤字ばっかで財政的支援ばっかでなく、そういうところの専門家も含めて、病院経営の専門家ぐらいのを呼んでいただいて、やっていただき

たいと思うんですが、それと医療ベンチャー、そういうの何人もおるんですよ。そういうのも使えるような形づくりをここでもやっていただけるような。今ちょうど一極集中、是正のいいところに来とると思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

まず、大学連携の関係であります。この糸魚川市の近辺ですと新潟大学もあるでしょうし、信州大学もあるわけですが、これまでの富山大学との関係というのが一番太いパイプであります。したがって、まずは富山大学と連携をしながら高度医療なり、人材の確保を進めていきたいというのが行政の立場であります。

それから、経営感覚を持った病院経営ということですが、やはり厚生連については経営が苦しいのは、ずっとそういう状況が続いております。我々も承知をしておるわけですが、高度な医療ばかりでなくて、やはり市民にとって必要な医療というのがあります。そういうものを着実に提供しながら、その上で経営の安定というのを図っていきたく。それについては、市のほうでも何かできるものがあれば協力をしていきたいというふうに考えております。

それから、医療ベンチャーというなお話もありましたが、繰り返しになりますけども、市民にとってどういう医療が必要なのか、まず、その土台をしっかりと築いた上で考えていきたいテーマだというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。ぜひそういう結びつきも含めて連携、産官学連携、学も含めてやっていただきたい。

それで、先ほど市長が言われてられた官民連携プラットフォーム、これが1点は、緑でつなぐ未来創造会議、この方々が、糸魚川商工会議所を中心にやってる。これが産業創造プラットフォーム。これだけでなく、やっぱり林業だけでなく、いろいろな分野も含めてどう糸魚川につくるか。10ぐらいプロジェクトをつくって、やっぱりやっていくような、年間を通して戦略プロジェクトチームぐらいつくって、10個ぐらいですよ。森林、農業も含めて第1次産業、違うところも含めて、さっきの医療でないですけど、いろいろな分野を専門的な大企業も含めて副業を来ていただけるようなのもも含めて、大学との連携も含めて、そういう10ぐらいのプラットフォームをつくってやっていくべきところに来とると思うんですが、サテライトオフィスやワーケーションですか、その辺も含めて今年からやるんですが、もうちょっと広い、総合計画なんで、7年後の計画も含めてやっぱりやっていくべきところに来とると思うんですが、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

糸魚川産業創造プラットフォームにつきましては、今お話がありました森林資源活用プロジェクトが、前回、市長のところに報告においでになりました。またこのほかにも、全部で7つほどのプロジェクトが今動き出す予定にしております、その動きの内容によりまして、今後、今言われました外部人材の活用ですとか、首都圏からの副業の方の活用、その他、いろんな動きが出てくると思っておりますので、当面は、今、産業創造プラットフォームのプロジェクトについて、市としても支援してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

7つとおっしゃったんで、もう三つぐらい、やっぱり10ぐらいをやっていくプロジェクトを、戦略チームぐらいつくっていただけるようなのが必要だと思います。

菅総理が、おっしゃった政府のファンドを通じて、大企業で経験を積んだ方々を地域の中堅、中小企業の経営人材として紹介する取組が始まったと。3年で1万人規模だということで、今回、令和3年は銀行からスタートしていくということなんですが、やっぱりそれは地方自治体としてもやっぱりピックアップして、やっぱり人材を招き入れる、誘致する。誘致できなければ講演会なりして、人材を育成していくような形を取れないかなと。やっぱりその辺まで必要だと思うんです。誘致すればお金もかかるでしょうけど、やっぱりオンライン講演会じゃないですけど、そういう専門家、どこかの大企業の人とやりながら、今回はこの戦略をやるとか、どんどん、どんどんやって、地域を巻き込みながら、役所の職員だけでなく企業いっぱいいると思うんで、テーマ幾つか設ければ、かなり来ると思うんです。オンラインでやる必要もあるでしょうけど、いっぱい集中すればなかなか難しいでしょうから、その辺も含めてやっぱりやっていくべきところに来てるんですよ。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

議員の、今プラットフォームも含めて7つじゃなくて10ぐらいと。確かにいろんな分野でこの可能性というのはあると思います。先ほど議員の質問にお答えしましたように、技術的にこれから変わってくる時代、そのためにやっぱり人材の育成が必要だというところでもありますので、今、コロナ禍で東京一極集中が地方分散と。今これ全国的にっておりますので、糸魚川市だけではない話でありますので、いろんなやっぱりワーケーションもそうでしょうし、いろんな全国のネットワークというのはあると思います。そういったところの人材と大企業、こちらへ来る場所もいろんな楽しみ方だけではなくて、いろんな糸魚川の特徴もあると思いますので、そこら辺もしっかり用意する中で、いかに首都圏の皆さんと結びつきをつけて、ずっとここで定住してもらえればいいんですけども、そうでなくても短期的に地元の企業の皆様とこの部分だけではこういった展開ができ

るとか、そういった数を増やしてくという展開が好ましいのではないかなというふうに思っておりますので、またそこら辺のいろんな分野、どういう分野がいいのか、いろんな糸魚川の経験した歴史もありますので、そこら辺を探りを入れながら進めていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

今、議員ご指摘のように大学との連携だとか、いろいろ大企業だとかとってご指摘いただきました。私はプラットフォームの中でどうやっていくかという基本的なものは、やはりただ単に委託だとか依頼だとかではなくて、やはり地元の企業の皆様方としっかりとした形の中で、新たな糸魚川の中での位置づけにしていきたいわけでありまして。ただ単に委託したり、技術を持ってきてだけではなくて、組織・団体をしっかりした形に位置づけて、市内に位置づけていく。それがやはり地域経済の循環型の肝だろうと思っております。そういう形になっていくものをやはり糸魚川にも根づいていかせる。そうすることによって、非常にまた若い人たちの働く幅も増えてくるだろうと思っております。そのような形で、今いろいろご指摘いただいた点につきましては、つくり方としては、そういう、要するにプラットフォーム的な、糸魚川で根づいていく形に持っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

本当に地元企業も新たにいろいろな職種も、それだけでなく、複数できるような形も含めて、やっぱりアップしていけるようなところまで必要だと思いますし、岡山県の岡山市が、外部人材の活用で副業と兼業人材を登用、民間視点の専門的知見を取り入れて、戦略マネジャーとして登用。3週間で616人が応募したというんですね、戦略マネジャーとして。その三つがプロモーション、DX、地域防災、この3分野で5人登用しとることなんです、その辺も含めて3週間で616人ですよ。そういう戦略的な、絞っていったところへ、先ほど市長がおっしゃった地元企業で聞いて、どういう戦略が必要なのかと。新たな着眼点を見つけていくような体制づくりっちゃ、私は本当に必要だと思うんですが。

それと南砺市ですか、これも副業応援市民プロジェクト事業、これもやっていったら、地元の企業が32社の募集で都市部から318人が応募した。やっぱり求める人材、企業からおっしゃっていただければ、全国各地、都市部からも来ていただける。副業ですよ、大企業も含めて。そういう人材登用も必要な時期だと思うんですが、その辺も含めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今申し上げておるのは、やっぱりそういったところも含めてです。要するに、民間がどういう考え方をしているか。そういう中において、やはりこのコーディネートする人材も必要でしょうし、そういったのをただ外部に置くだけではなくて、中に入って一つの企業体としてつくっていく、つくり上げていく地域の産業にしていくという形を位置づけしていきたいと思っております。ただ単にこの部分だけ、あの部分だけで連れてくるんじゃなくて、協力するにいたしましても地域の企業として、また成り立っていくような枠組みをつくった中で、地元の産業、企業も入っていただいて、そういった投資をしながらつくってもよろしいでしょうし、やりたい人たちが加わって、新たな立ち上げをしていく形にしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思います。

8番目の三の丸尚蔵館の美術品、これは糸魚川じゃ難しいということなんですが、昨日の田原議員の質問の中にすばらしい谷村美術館やいろいろな形で、できる場所はあると思うんですが、この三の丸尚蔵館は、我が国が誇るべき2,000を超える国宝重要文化財級の美術品を所蔵している。それらを地方に積極的に貸し出して、文化・観光の核とすると、2,000を超えるすばらしいものがあるんだから、そんないっぱいこと必要ないですけど、何点かに絞って、やっぱりすばらしい谷村美術館や歴史民俗資料館だとかいろいろな形があると思うんで、その辺、難しいんでしょうか。やっぱり観光にそこに結びつけて、時期を見つけて観光との結びつきが必要になってくると思いますが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

三の丸尚蔵館の美術品につきまして、今、谷村美術館ということもおっしゃいましたけども、谷村美術館につきましては、独特な建造物ということと、その仏像を中心とした展示ということで、そのための建物というふうに理解しておりますので、谷村美術館を活用した展示というのは非常に難しいものというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

難しいと思われる点につきましては、補足させていただきますが、旧糸魚川市で美術館の建設がございました。その構想のときに、計画の中において国宝級の美術館、そういったものをやはりあ



るわけでございますので、それなりのやっぱり美術館の施設にしなくてはいけない。そして、国宝をやはり持つてくるには、国宝を飾れるような施設が大事だったり、また、自分たちが国宝を持つことによって、同じ国宝を持って展示を安価でやれるような形ができるわけでありますが、ないとなってくるとかなりの高額のコストが発生したりする部分があったり、非常にレベルが高ければ高いほど、そういったハードルが高くなっていく部分がございます。当市においては、今ご指摘いただいたように谷村美術館が、一番美術館としての位置づけがあるわけでありますが、そこにおいては課長が答弁されたように非常に限られたといいたまいますか、一般の展示をするような形にはなっていないので難しいのではないかな。

また、美術館には、美術館としてのそういった施設も、また環境も大事になってくるんですが、当市においては、なかなかそういったのがマッチしない部分だろうということもございます、糸魚川に美術館があれば、そういったことが解消できるんだろうと思うんですが、その辺が大きな難しい点だろうと捉えたわけでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

湿度だとかいろいろな形で美術館、ご破算になったときに思ったんですが、代替えできるようなところは、もうちょっと探していただいてもいいですし、なければ、検討しても駄目かも分かりませんが、その辺も何かで工夫できんかなと思うんで、その辺は検討していただきたいなと、こう思います。

それで、観光を含めて、やっぱり文化と観光を結びつけて、いろんな糸魚川に文化財ありますんで、その辺も含めて観光と結びつけていっていただけるような体制づくり、県も、県のファンを集める観光戦略の中に入ってますよね。糸魚川も結びつけて、いろいろな体験やいろいろできるような体制づくりをぜひやっていただきたいと思うんですが、その辺も含めてDMOの活性化ですか、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

確かに美術品等、その地域でしか見られないものですか、そこへ行かなければ見られないものというのは、観光誘客にとって大変効果的であると思っております。そのためには、今おっしゃったように観光地域づくり法人であるDMOと一緒にしまして、情報発信や、あと魅力を十分にPRできるような体制を取って、地域ぐるみで対応をしていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひDMOも含めて、文化と観光、共に連携しながら結びつけていただきたいなど、こう思います。

それで、次に、断らない相談支援体制づくり。これも全国では4月からですか、やっていくような体制。新たな支援も含めて、民間企業とNPOは糸魚川では少ないですが、その辺も含めて一緒に、市は相談していくような柔軟な体制、広い障害者も含めてできるような、ひきこもりや生活困窮者、DV、性被害のトラウマ、家庭不和、自傷行為、生きづらさ、ホームレスとか生活保護も含めて全体を相談できるような体制づくりをやっていけると国が言っとるんですが、その辺も含めて糸魚川はどうやっていこうとしてるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えをいたします。

断らない相談支援体制につきましては、国、厚生労働省が定めてる制度でありまして、介護であるとか障害、子供困窮といいました相談支援に係る事業を一体的に実施するということが大きな狙いでございます。

今回、糸魚川市の体制ということでございますが、こちらのほうにつきましても、これまでも様々な関係機関が連携することによって、それぞれ相談者の課題解決に向けまして対応しているところでございます。今回、民間団体もというふうなお話もございました。行政だけで考えるのではなくて、地域であるとか、また地域には民生委員、包括支援センター、また学校といった様々な方がいらっしゃいます。そういった方々の網、ネットをより細かくすることによって、そういった相談から、相談に乗らない方がいないような形で、少しでも皆さんの支援に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

障害者支援計画の中にもありましたが、障害者相談支援事業、基幹相談支援センターも含めて、令和5年度からですか、やっていける。その辺も含めてやっていただきたいと思えますし、ちょうど豊中市、大阪府の豊中市の社会福祉協議会の勝部さんて方が、待ってるだけじゃ駄目なんです。行って、相談者のところへ行って、好きなことや得意なことに目を向けて、対話していくと心のチャンネルが合う瞬間がある。やっぱり心をつかんで、やっぱりひきこもりやいろいろな方々を就労させたり、共同のところ、居場所のところへ持って行ってくれるとか、やっぱり出ていただけるような体制づくりっちゃやっぱり必要だと思うんです。それで、その豊中市では、8,000人のボランティアがおるといいますね。ボランティアの方々が行ってくれるちゃ、ここに方々がおられるとか、やっぱりいろいろな方が通報していただける。その体制づくりも必要だと思うんですが、その辺もいかがですか、ボランティア。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今ほど五十嵐議員おっしゃられました豊中市の社会福祉協議会の例、ちょうど昨日の新潟日報の記事ということで、私も拝見しております。大変すばらしい取組だというふうに感じておりますし、市内でそういったボランティアの方々をつくるというふうな先進的な事例でありますので、そういった点につきましては、研究させていただくとともに、そういったボランティアの方がいなくても、様々な地域から、そういった声が寄せられるといったような体制づくりにも努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ全国の、これもテレビでやっと思ったんですが、全国にNPO、全国に相談相手がいる。そういう方々があって、また地域に社会福祉協議会なり、いろいろな方々とのネットワーク、ネットワークでそれを広げながら、試みが必要だということで、対処できるような体制づくりちゅうの、いろいろな形ができると思うんですが、その辺の人材、ボランティアを含めて、人材づくりも含めてやっていけるような体制づくりが必要になってくると思うんですが、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

一つの課題を解決するには、一つの方法だけで解決するとは限らないと思っております。様々な手段・方法を重ねることによって課題解決に結びつけるものというふうを考えておりますので、多くの方法、多くの人材を活用する中で、今ほどの断らない相談支援ではございませんが、それぞれの方々に寄り添いながら、支援に当たってまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

塩尻の方なんですが、日本一おかしな公務員、100人を変えるにはまずは10人、その10人に引っ張られて、50人が変わると、残りの50人はそわそわし始める。100人のうち10人を変えると。その辺の意識改革も含めて、職員の皆さんも含めて、経営感覚も必要になってくると思うので、その辺も含めてぜひやっていただきたいなと思います。

これで、一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

14時50分まで暫時休憩といたします。

〈午後2時42分 休憩〉

〈午後2時50分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。〔8番 新保峰孝君登壇〕

○8番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、新型コロナウイルス感染症対策について、保育・教育行政についての2点について、米田市長のお考えを伺いたいと思います。

1、新型コロナウイルス感染症対策について。

(1) 医療関係者から新型コロナウイルス感染症に対するワクチンの接種が始まりました。ワクチン接種をどのように進めていくお考えか。

実務を担う糸魚川市の計画と体制は、どのようになっているか。医師、看護師、接種後の一時待機場所等、確保できたか。

(2) ワクチン頼みで感染対策がおろそかになれば、新型コロナウイルス感染症を抑え込むことはできません。無症状感染者を含めた検査の抜本的拡充、医療機関への減収補填、十分な補償等、感染対策の基本的取組を並行して、しっかり行うことが必要と考えます。どのように考えているか。

(3) 医療機関のみならず、高齢者施設を集団感染から守ることは、緊急の課題であります。介護や高齢者施設の優先接種を、県や国に働きかける必要があるのではないかと。

(4) コロナ禍で全国的に医療危機の状態が表面化し、医療従事者の離職もあります。地域医療体制の長期的安定を図るためにも、医療への国の財政支出を増やす必要があると思うが、どのように考えているか。

2、保育・教育行政について。

(1) 保育士を目指す人たちが少なくなっていると言われ、保育行政をめぐる環境には厳しいものがあると思いますが、当市の人材確保の現状は、どのようになっているか。

(2) 近年、保育職員の退職が多いのではないかと思います。職員が辞める原因と現状をどのように捉えているか。

(3) 少子化の中で、浦本保育園が休園となりますが、学校統合と同じように十分な話し合いを行った上で方向を決めるべきだと思いますが、閉園を急いだ理由は何か。